

【23_118技術系メルマガ】ある時突然起こる不確実性

〇〇さん

こんにちは、クロです。

先日のメルマガ【114】通目にて、損切りをテーマとしたメルマガを送ったところ、この内容について読者の方から質問をいただきました。

▼質問はコチラ▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2023-04-28.png

自分が想定していない値動き（主にエントリー後の逆行）による損失を限定する、もしくは許容範囲内に抑えるために損切りを行うわけですが

ただ値動きが逆行するというだけではなく、市場のサプライズによってもたらされる値動きの急変動というのはいつ起こるかは誰にもわかりません。

例えば、2008年のリーマンショック、メールにも書かれているスイスショックだって、それが発生する前にその兆候を予知する人はいたとしても

それが「いつ起こるか」まで分かっていた人は誰もいません。

つまり、このような天変地異的値動きが発生するリスクも含んだ不確実性を僕らは常々覚悟しておかなければいけないわけです。

□
└─ ■ "コントロールできないリスク" については、対策は出来ない
└──────────────────┘

それを踏まえたうえで、頂いたメールに対して回答すると

スイスショックのような市場のサプライズによって生じる急変動に巻き込まれた場合、ストップを置いていたとしてもネガティブスリップで想定以上の損失を被る可能性は非常に高いと言わざるをえません。

また、指標などによって前もってボラティリティが高くなると想定される場合、ブローカー側もスプレッドを拡大させるので

思った位置で約定しない(場合によっては約定拒否される)こともあります。

しかしながら、それは大抵のブローカーが事前に予告をしているし、指標の発表時刻も予め予告されているので、これは事前に対策する事ができますよね。

両者には「いつ起こるか分からないので、想定しようがない」ことであるか、そうではないかという決定的な違いがあります。

つまり、前者(市場のサプライズ)は「コントロールできないリスク」であるが、後者(指標によるスプレッドの拡大)は事前に想定が可能なので「コントロールできるリスク」であると言えます。

結局、コントロールできないリスクというのは、自身のような天変地異と同じで完全に事前回避する事は困難です。

僕らはその点も飲み込んだうえで、自分の「コントロールできるリスク」を制御する事に徹底してフォーカスする事が必要なのです。

では、僕が注意している指標というのは何かを挙げておくと、先ず主要国中央銀行の『政策金利』発表。これはどんな時でも必ず気を付けます。

最近では物価指数に対する注目度が高いので『消費者物価指数(CPI)』や『失業率(米国雇用統計も同様)』にも注意しています。

気をつける、といっても前後のスプレッドの急拡大に巻き込まれないために前後5分を目安に慌ててポジションを取らない事や

事前にポジションを保有中であれば、建値にストップを移動しておいたり、含み損なら決済して手を引くなど

とにかく『損を徹底して小さくできる可能性の高い』対策を取るようにしています。

これだけ気を付けていても損失が出る時は出るものなので、根絶はできないとしても

自分の虎の子である軍資金を残して次の戦いに備えることに最善を尽くすことが、唯一相場の不確実性に対処する方法であると考えます。

皆さんのリスク管理についても、今日の話を参考にして考えてみて貰えたら幸いです。